

- 夏休み始まる
- 2025年度入試結果の分析

ガルシア＝マルケスと蕎麦屋のカレー

国語科 高谷耕介

「人生とは、自分が何を経験したかではなく、何を思い出し、それをどう思い出して語るかで決まる。」

これは、ノーベル賞作家ガルシア＝マルケスの言葉です。この考え方は、進路や将来について考える際にも極めて重要な視点です。

キャリアとは、一言で言えば「これまで歩んできた物語」です。そして、その物語は他の人からどのように見えるかによって評価が決まります。どれほど価値のある経験をしていても、それを適切に伝えることができなければ、存在しなかったも同然になってしまいます。つまり、自分が経験してきたことをどのように語り、人に伝えるかが非常に重要なのです。

私は昨年度まで、私立の中高一貫校で勤務していました。実は、その学校では国語だけでなく情報Ⅰも担当していました。国語と情報の両方の教員免許を持ち、かつ両方の授業を行った経験がある教員は、全国的に見てもあまり多くはないと思います。（なぜそのような免許の取り方をしたのかについては割愛いたします。）

ある年は国語の授業を多く受け持ち、またある年は情報の授業に入り、中学校では総合的な学習の時間を1年間担当し、プログラミングを教えたこともありました。学校側から見れば、さまざまな教科を担当できる教員は価値ある存在だったと思います。しかし、「キャリアを形成する」という視点で考えると、このような働き方には一定のリスクも伴っていました。なぜなら、教員という職業には高度な専門性が求められるからです。「どちらの教科も担当できます」と伝えるだけでは、国語一筋で歩んできた先生方と比べて、専門性の印象が薄れてしまう可能性があるのです。

そこで私が考えたのが、「蕎麦屋のカレー」という比喻です。

蕎麦屋のカレーは、なぜか格別においしいものです。蕎麦屋ではだしをとるために昆布や鰹節といった上質な素材を使用します。その旨味成分がカレーのスパイスと融合することで、普通のカレーにはない甘みと深いコクが生まれています。蕎麦屋のカレーは、インドカレーや欧風カレーと比べると方向性は異なりますが、蕎麦屋だからこそ出せる味わいを持ち、独自の魅力を放っています。

私も今後は、国語と情報の両方で培った経験を活かし、私ならではの授業を作り上げ、それを生徒の皆さんに伝えていきたいと考えています。

生徒の皆さんも、自分の強みを探してみてください。そして、ただ強みを見つけるだけで満足せず、それをどのように語り、他者に伝えていくかまで考えてみてください。大げさなことである必要はありません。「人より少し頑張ったこと」や「好きで続けてきたこと」で十分です。それを自分らしい物語として語る事ができたとき、その力は進路や将来において必ず大きな武器になります。

○夏休み始まる

40日間の長期休業が始まります。そこで、学習・進路面のアドバイスです。

・1年生

今、大切なことは、学習習慣の定着です。「学習しないで眠るのは気持ち悪い」と言えるくらいの境地に達していますか？学習習慣が定着していない人は、まず、夏期講習や宿題に、毎日着実に取り組みましょう。次に、1学期の学習で分からない部分や理解があやふやな部分(=弱点)があったら、丁寧に復習しましょう。今、学習しているのは2年後の大学受験で土台となる基礎の部分です。2年後、どんな進路でも選べるように(=弱点科目があるために進みたい道へ行けないことがないように)、復習しましょう。

その他、将来の職業も考えましょう。夏休み中は、保護者以外に親戚など多くの大人と接する機会も多いでしょう。積極的に話を聞いて見聞を広めましょう。

・2年生

上記の1年生の内容に加えて、教養を磨きましょう。そのために、本を読みましょう。その理由は、難関大学の英語・国語の文章や小論文のテーマ、総合問題の内容は自然科学、社会科学、人文科学など多岐にわたっています。つまり、大学が受験生に求めているのは受験科目以外に教養もあるのです。夏休みは、英数国の基礎力を固める(苦手部分を復習、克服する)のは当たり前として、残った時間は読書をして教養を高めましょう。

・3年生

5月に実施した模試(河合塾の記述模試)の結果は、国公立大学の理系・文系志望者ともに偏差値60以上(旧帝大レベル)、55以上(地域拠点大、横国・千葉などのレベル)の人数が例年より多くなっています。偏差値65以上の人数も昨年度と並び、過去5年間で最も多くなっています。78回生の成績は全体として好調です。このままの勢いで、受験勉強を計画通り着実に進めましょう。

模試の判定が悪かった人も、悲観する必要はありません。模試でA~C判定が出ているのは志望者全体の30%程度です。例えば、早稲田大学社会科学部社会科学科では合格者の42%がE判定から合格しています。

(河合塾調べ)1番大切なのは模試のやり直し(=弱点分野を確実に把握し、同じ問題を二度と間違えないようにする)で合否判定や偏差値ではありません。目

標値との差を認識し、弱点を克服する材料にしましょう。

部活も引退し、勉強だけの日々に苦しみを感じることもあるかも知れません。そんなときは適度に息抜きすることも大切です。まだまだ先は長い。苦しいのは皆同じ。時には友人や家族と語らい、リフレッシュしましょう。また、心の持ちようも大切です。「分からない」「覚えられない」と嘆くのではなく、「今日も少しだけど、分かった、覚えられた。」と一つ一つできたことに、嬉しさや楽しみを感じましょう。

○2025年度入試結果の分析

1学期中、各予備校などが2025年度(昨年度)の入試結果分析を発表しました。以下に概要をまとめました。(河合塾の最新資料を基に作成)

1. 大学志願者数は一時的に増加

- ・18歳人口は前年から増加(+2.7万人)
- ・大学進学率はさらに上昇

2. 大学全入時代、大学改革が活発に

- ・2024年度私立大入学者は入学定員を下回り、大学の募集停止、学部再編の動きが
- ・新增設は理工系・情報系が中心
- ・女子大の改革も活発化

3. 新課程初年度入試の影響

- ・共通テスト「情報」導入で教科数増
- ・個別試験での影響は旧課程生への配慮もあり限定的

4. 共通テスト概況

- ・平均点は2年連続アップ。26年度入試は難化か

【共通テスト主要科目平均点】

教科・科目		昨年	今年	差
英語	リーディング(R)	51.5	57.7	+6.2
	リスニング(L)	67.2	61.3	-5.9
数学	数学Ⅰ,数学A	51.4	53.5	+2.1
	数学Ⅱ,数学B,数学C	57.7	51.6	-6.2
国語		116.5	126.7	+10.2
理科	物理基礎	28.7	24.8	-3.9
	化学基礎	27.3	27.0	-0.3
	生物基礎	31.6	31.4	-0.2
	地学基礎	35.6	34.5	-1.1
	物理	63.0	59.0	-4.0
	化学	54.8	45.3	-9.4
	生物	54.8	52.2	-2.6
地歴・公民	地学	56.6	41.6	-15.0
	地理総合,地理探究	-	57.5	-
	歴史総合,日本史探究	-	57.0	-
	歴史総合,世界史探究	-	66.1	-
情報Ⅰ	公共,倫理	-	59.7	-
	公共,政治・経済	-	62.7	-
	情報Ⅰ	-	69.3	-
6教科型文系		-	620	-
6教科型理系		-	633	-

5. 国公立大志願状況

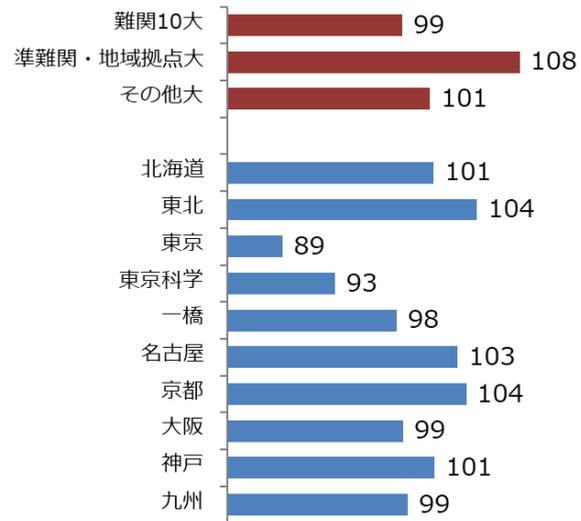
国公立大入試の中心である前期日程の志願者は前年比 101%となった。後期日程は前年比 100%、中期日程は 106%。後期日程志願者は減少しているが、後期縮小で募集人員が減少しているため、志願倍率はむしろ上昇した。

近年、少子化により国公立大の志願者数も減少傾向にあり、2023・24年度の2年間は23万人台前半で推移していた。2025年度は23万人後半まで増加したが、2019年度以前と比べれば競争緩和している。

難関大では東大、東京科学大で志願者が減少、その一方で準難関大の千葉大、東京都立大、横浜国立大では志願者は前年から1割増となった。共通テスト後の志望校切り替えも目立ち、「行きたい大学」を最後まで諦めない姿勢が合格に繋がると言える。

学問系統別の動向としては、文系では社会科学系の各系統で志願者の増加が目立った。なかでも「社会・国際」「法・政治」は前年比 108%と高い増加率となった。理系では「理」で志願者が増加、「工」で前年並み、「農」で減少した。また「医・歯・薬・保健」の志願者数は前年並みであったが、「医」で減少、「歯」で増加した。

大学グループ別と難関10大学



※河合塾調べ（いずれも前期日程で集計）
グラフ内の数値は志願者前年比 (%)

6. 私立大志願状況

私立大の志願者は前年比 107%と増加した。方式別にみると、一般方式に比べ、共通テスト方式の増加率が高くなっている。

大学グループ別に志願状況をみると、難関大・有名大は志願者が増加しているグループが多い。これらのグループも共通テスト方式での志願者増が目立っており、受験生の出願校を増やす動きがみられる。

先輩からの言葉

※先月号の「先輩からの言葉」に一部掲載不備がありましたので、再掲しています。

職業の道楽化、道楽の職業化？

東京都立大学大学院

20回生 高橋 進

私は、子供の頃からの自然好きで、自然に関連した仕事をしてきました。皆さんのこれからの進学や職業選択の参考になるかわかりませんが、私の体験をお話ししましょう。

私の新宿高校でのクラブ活動は生物部。当時の部員は、植物よりも蝶などの昆虫や両棲・爬虫類などに興味のある者が多かったです。数種類のヘビを飼育していたために、まだ田園の広がっていた日野付近にまで餌のカエルを捕りに行ったりもしました。部室は、正門すぐ右側の小屋で、一部ガラス張りの温室でした。温室というよりも飼育室と呼ばれていた部室で、昼休みの弁当を部員と食べるのが楽しみでした。

大学進学も、生物や自然に関連した学部のある大学の受験を考えていました。当時の新宿高校では一浪が当たり前。そこで、どうせ浪人するならと、友人たちと東大（私は理科Ⅱ類）だけを受験して、運良く合格。その後、農学部林学科に進学し、卒業しました。

就職は、「どこに就職するか」というより、「何をするか」ということで、設置されたばかりの環境庁（現、環境省）を選択。自然保護の技官として、十和田湖や阿寒湖の国立公園管理事務所勤務や本庁（霞が関）での様々な政策立案などに携わりました。JICA 生物多様性プロジェクト初代リーダーとして、インドネシアで3年間過ごした経験も。30年間の役人生活の後、新設された共栄大学の教授に就任。およそ20年間の研究と学生教育。退職後も熱帯林での研究プロジェクトに参画。これが、高校卒業後の私の人生の大まかな足取りです。環境省での仕事や大学での研究も紹介した著書『生物多様性を問いなおす世界・自然・未来との共生とSDGs』（ちくま新書）は、図書室にも蔵書されています。大学や高校の入試問題（国語）にも採用されました。興味のある方はどうぞご覧ください。

ところで、日本最初の林学博士であり、国立公園創設にもかかわるなど、私と縁の深い（と勝手に思っています）人物が本多静六。日比谷公園や明治神宮の設計・造営にも携わった人物として有名です。本多静六は多くの人生訓も残しましたが、そのひとつで私の好きな名言に、「人生最大の幸福は、その職業の道楽化にある」というのがあります。

私は、よく家族や知人から、「好きな仕事できて、幸福だ」と言われます。私自身もそう思います。小学校の卒業文集を見返したところ、「20年後の僕・私」として「生物研究所の所長になり、まだ知られていない生物をたくさん発見して、その生物の世界を調べる。そして映画にして、みんなに見せたい。」と書いてありました。中学でも生物部。「職業の道楽化」というよりも、「道楽（趣味）の職業化」といった方が良いかもしれません。

とは言え、実際に仕事となると、楽しいことばかりではありません。十和田湖や阿寒湖の観光地で生活できるなんて、と知人から羨ましがられましたが、今と違ってネット販売もない時代、週に一度数十キロ離れた町まで買い物に出かけたり、地元の観光業者との微妙な付き合い加減などに気を使ったり、身体的、精神的な苦勞もありました。霞が関では、連日の終電間際までの残業、終電後のタクシー帰宅も随分ありました。一方で、一時的な観光客では味わうこともできないような四季折々の自然の姿に出会い、また国内はもとより国際的な自然環境・生物多様性政策の立案や実施に携わることができたのは喜びであり、誇りでもあります。

皆さんも、これからの生活の中で様々な選択とその結果としての人生があることでしょうか。私のように、運よく好きなことがそのまま職業（道楽の職業化）となれば、それに越したことはありませんが、どんな仕事にも、そこに楽しみ、喜びや遣り甲斐、誇りを見出すことは可能かと思います。まさに、「職業の道楽化」を心がけてはいかがでしょうか。

（同窓会のご協力を得て「先輩からの言葉」を掲載しています。）

※今後の予定（進路関係）

9月10日（水） 共通テスト説明会（6限・3年生）

17日（水） GTEC（午後・1、2年生）